

製品名: 間質相互作用分子 1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21493**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:77kD;Observed MW:77kD

抗原情報

遺伝子名	
別名	Stromal interaction molecule 1
遺伝子 ID	6786.0
SwissProt ID	Q13586
免疫原	ヒト間質相互作用分子 1 の合成ペプチド

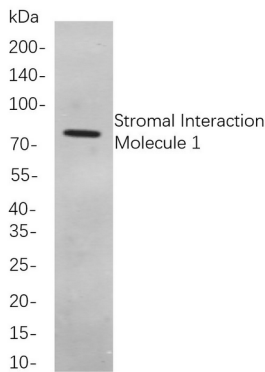
背景

細胞局在: 膜。この遺伝子は、細胞内 Ca²⁺ストアの枯渇後に、ストア作動性 Ca²⁺流入チャネル (SOC) のゲーティングを介して Ca²⁺流入を媒介する 1 型膜貫通タンパク質をコードする。この遺伝子は、重要な腫瘍抑制遺伝子領域である 11p15.5 のインプリント

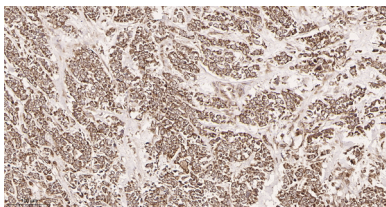
遺伝子ドメインに位置する複数の遺伝子の1つである。この領域の変異は、ベックウィズ・ヴィーデマン症候群、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、副腎皮質癌、肺癌、卵巣癌、乳癌と関連付けられている。この遺伝子は、間質細胞への接着を媒介することにより、この領域に関連する悪性腫瘍や疾患、ならびに早期造血において役割を果たしている可能性がある。この遺伝子の変異は、致死性の古典的カポジ肉腫、線維芽細胞におけるストア作動性カルシウム流入 (SOCE) の異常に起因する免疫不全、外胚葉性異形成症、および尿管凝集性ミオパチーと関連しています。この遺伝子はリボヌクレオチド還元酵素1遺伝子 (RRM1) と頭尾構造を形成しており、3'末端は RRM1 遺伝子の 5'末端から 1.6kb の位置にあります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2013年5月]

研究分野

画像データ



C6細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (Stromal Interaction Molecule 1 Rabbit mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト乳房組織の免疫組織化学分析。1、間質性相互作用分子1ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体賦活化 (>98°C、20分) には EDTA pH 9.0 を使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。